

メバル膳デビュー

中泊メバルの刺身と煮付け膳 協定調印式・完成披露会



認定書を手記念撮影

昨年6月から開発が始まった、新・OMOTENASHI(おもてなし)当地グルメ。1年かけて、小泊地区で水揚げされたメバルの尾頭付き刺身や煮付けに、イカの刺身、米は中里地区で育てたつがるロマンといった「中泊メバルの刺身と煮付け膳」が完成しました。7月2日(木)町文化センターパルナスで中泊メバル料理推進協議会が協定調印式・完成披露会を開催し、約



メバル膳を試食する町長

100人が出席しました。同会会長の中畑さんが「このメバル膳が呼び水となり街が活性化してほしい」とあいさつしました。プロデューサーのヒロ中田氏は、「何度も壁にぶつかったが、そのたびにチーム中泊で乗り越えてきた。予定よりも8ヶ月も早くデビューできたのは、チーム力が高い証拠だと思う。1年、2年ではなく10年と続くものにしてもらいたい」と激励しました。

その後、提供店舗の代表らがメバル膳を提供するという協定に調印し、町長から認定証が授与されました。試食会が始まると、出席者たちはメバル膳に舌鼓を打ち、町長は「うまい。これなら観光客にも満足してもらえら」と太鼓判を押しました。

提供店舗は「おさかな海岸」「はくちょう亭奈良屋」「くつろぎダイニング哲」「ピュアレストラン」の4店舗で、メバル膳ののびりが目印。

中泊町は高級魚メバルの水揚げ青森県ナンバーワン!
メバルの刺身と煮付け膳
イカ刺しほん
メバルの刺身と煮付け膳
「平均ホタテ活卸」に続く青森県5番目の新・ご当地グルメ



ピュアレストラン
中泊町大字八幡字日向334
☎ 57-5011
営業時間…9:00～17:00
定休日…12月31日～1月3日



くつろぎダイニング哲。
中泊町大字中里字紅葉坂48-4
☎ 57-9086
営業時間…11:30～14:00
定休日…月曜日 第2・第4日曜日
12月31日～1月2日休業



はくちょう亭奈良屋
中泊町大字今泉字唐崎255
☎ 58-2816
営業時間…9:00～17:00
定休日…1月～2月 日曜日
12月31日～1月3日休業



おさかな海岸
中泊町大字小泊字折戸51-34
☎ 64-2001
営業時間…9:00～15:00
定休日…木曜日(7月～8月は無休)
11月下旬～4月中旬まで休業

活ハマクラブが体験ツアー

海峡メバル網外し体験

中泊町活ハマクラブ(会長・小林寿伸)が、6月20日(土)、7月4日(土)の2日間、この時期行われているメバル刺し網漁の網はずし体験をするモデルツアーを開催しました。体験には、町外や中里地区から親子連れなど両日合わせて約30人が参加しました。

ツアーは、小泊漁協の施設である荷さばき場の見学から始まり、採れたてのメバルなどの魚類、生きたアワビやサザエの紹介を受けました。次に製氷庫へ移動し、真



小泊で獲れる魚の説明

冬でもなかなか経験できないマイナス10度の世界を巨大冷凍庫に入って寒さを体感しました。ここには、箱詰めするときを使用する氷が山積みになっています。

その後、漁船の明かりに照らされてメバル網外し体験がスタート。漁師さんの説明を受けたあと、1尾ずつ丁寧に網から外していきま

した。最後は、メバルの刺身・じやっぱ汁・ウニを試食しました。この体験ツアーは、7月25日(土)、8月22日(土)にも予定されています。



網外しを体験

津軽と下北の味比べ

「ピュア」オープン2周年記念イベント

町農産物加工販売施設ピュアがオープン2周年を迎え、6月27日(土)～28日(日)の2日間、記念イベントを開催しました。今年は、「津軽半島vs下北半島食合戦」と題して、十三湖の活シジミや東通牛の串焼きなどが並び、2日間で2200人が訪れました。

イベントには、町イメージキャラクターの米ケルイカリん・米ケルJr.が応援にかけつけ、華麗なダンスを披露し会場を沸かせました。その後、4つの子ども園がそれぞれ遊戯などを披露したあと、4施設合同でのダンスをし、会場を盛り上げました。子



中里こども園の鼓笛演奏

どもたちの家族はカメラやビデオカメラを片手に声援を送っていました。

お昼が近づくと振る舞いコーナーを設置し、来場者には、加工施設で作った米粉を使ったすいとんとシフォンケーキを無料で提供しました。立ち寄った人たちは「美味しい食べ物がたくさんあって、食べ過ぎてしまった。米粉のすいとんやシフォンケーキは作り方も書いているので、家で作ってみたい」と楽しそうに話していました。



◎×クイズ大会

楽しいイベントで盛り上がる 今泉賽の河原例大祭

祖先供養と仏供養を目的に今泉賽の河原講中運営委員会が主催する今泉賽の河原例大祭が、6月23日(火)に行われました。

例年は雨の日が多い例大祭ですが、今年は青空がのぞく下での開催となりました。霊場には地元をはじめ、多くの参拝者が訪れ、色とりどりの衣装を身にまとった33体の地蔵に線香やお菓子を供え、手を合わせて先祖の霊を供養していました。

今年も霊場内の広場でさまざまなイベントを企画。薄市



米ケルJr.と一緒になにもささ



先祖を供養する参拝者

小学校の合唱やなにもささ、薄市こども園の歌やダンス発表、米ケルJr.とイカリんによるダンス、中里横笛愛好会のお囃子演奏、中里中吹奏楽部の演奏、ふるさと交流歌謡ショー、よさこいなどの芸能発表が披露されました。さらに今年は町のイメージアップ大使の横山ひできさんも応援にかけつけ、三味線演奏や漫談ショーで参拝者を喜ばせていました。また、ドップくじ引きなども企画され、子どもたちが参加して楽しんでいました。



最年少での参加

竜泊ラインを観光資源として活用して観光振興を図ることを目的に竜泊ラインウォークが、6月14日(日)道の駅こどもり「ポントマリ」をゴールに長短2つのコースで行いました。

このウォークには、町内外から170人が参加し、Aコース6kmには、ベビーカーの親子連れでの参加者がいました。ウォーク開始時には小雨が降り、Bコース12kmのスタート地点の眺瞰台付近は霧で景色が見えない状況でしたが、少し下ると晴れに変わり日本海が一望できました。

第13回竜泊ラインウォーク 小雨降る中スタート



1等大当たり

ゴール後は、メバルなどが入ったあら汁、おにぎり、イカのぼつぽやきとわた入りイカ焼きが振る舞われ、疲れを癒しました。最後は、恒例お楽しみ抽選会。道の駅で販売されるイカ生干し、塩辛、ワカメ、メバルなど地元の特産品の詰め合わせなどを用意し、参加者たちは、自分の抽選番号が呼ばれるよう願っていました。

参加者らは「気持ちいい汗をかくことが出来た。景色がとてもきれいで、歩いていて気持ちよかった。振る舞いのメバル汁が美味しくおかわりしてしまった。また来年も参加したい」と話していました。

ふるさとミュージアム

ふるさとイメージアップ大使

三上寛さんの凱旋ライブ

駅ナカ「にぎわい空間」実行委員会が、6月15日(月)津軽中里駅の駅ナカで、4回目となる「三上寛ふるさとに叫ぶ」を開催しました。会場には、約100人の来場者が集まり、ライブを鑑賞しました。

第1部は、べえ子ちゃんの「健康ダンス」や「スコップ三味線」、三上さんの同級生の下川原久恭さんによるギター演奏などで会場を沸かせていました。

第2部は、当町イメージキャラクターの米ケルJr.とイカリんがキレのあるダンスを披露しました。

第3部は、三上さんのライブです。今年も自身のギターにのせて、歌い、そして叫びを披露しました。

三上さんは「変わらないものがあるのが中泊の良い所。これから1年に1回は、地元の皆様さんとの交流を続けていきたい」と話していました。



叫ぶ三上寛



べえ子ちゃんのスコップ三味線

迅速な対応を図る

小泊漁港で海難救助訓練

海難事故発生時の迅速な対応、関係機関との連携を強化することを目的に中泊町沿岸訓練実施隊が6月26日(金)小泊漁港で海難救助訓練を実施しました。

開会では、同隊の佐藤代表が「毎日の操業中、参加していただきありがとう。漁獲の低迷、燃油・資材の高騰で経営が厳しくなっている。そのため無理な操業も考えられる。幸い小泊地域で悲惨な事故はないものの、大きな事故はいつ起こるか分からない。この訓練が大きな成果になることを期待する」とあいさつしました。

この日の訓練は、船舶間での衝突事故発生によって、



漂流者を救助



心配そうにみつめる子供たち

海中転落事故と火災事故が起きたという設定で行われました。

対策本部の設置に続き、漂流者の救出訓練では、こども園こどもりの子どもたちが心配そうに見守る中、海中に転落した乗組員2人を引き上げ救助しました。その後、船舶火災消火訓練では、煙があがる船に向かっての放水訓練を行いました。

また、漁協職員や婦人部による応急手当訓練、AEDを使用した心肺蘇生法、救命胴衣着用推進を宣言し、安全操業への意識向上を図りました。